



貨物ダメージ情報管理システム
Damage Tracer
ご紹介資料

株式会社 日立ソリューションズ・クリエイト

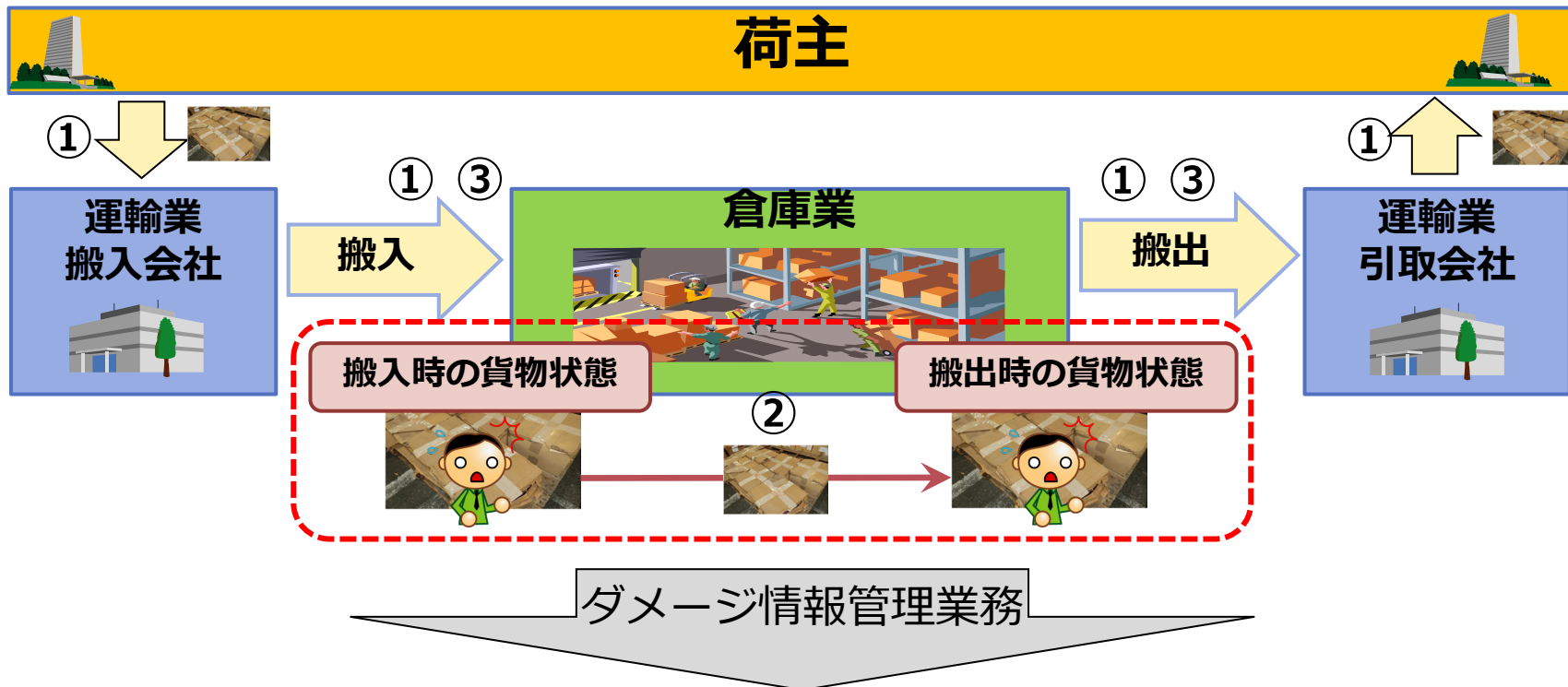
Contents

- 1 .貨物ダメージ管理業務とは
- 2 .Damage Tracerとは
- 3 .メニュー体系

1. 貨物ダメージ管理業務とは

1. 貨物ダメージ管理業務とは

物流における運送・保管の過程で貨物の状態（ダメージ）を管理する業務



- ① 貨物運送に携わる各社様が、引き渡しを行うポイントで**貨物ダメージ状態の相互確認**。
- ② 倉庫業務中に**ダメージを発生させていないことの証明**。
- ③ 搬入会社様／引取会社様／税関（税関報告は義務！）等への**ダメージレポートの提出**。

貨物にダメージがあるとどんなことがおきるか？

搬入時ダメージ
レポートを作成

搬出後
クレーム

いつどんなダメージが
発生していたか調査

自社に責任がないことを
証明する必要がある

自社に責任があると
賠償問題に！

👉 市場の動向

過去においてダメージ状態は「ツブレ」等の言葉で共有できていた。
⇒最近では**ダメージの程度**が重要視されてきており、**管理の精度が重要**となっている。

👉 市場の背景

多くの倉庫業者様・運送業者様は
手作業（デジタルカメラの写真画像）でダメージ情報管理を実施

👉 市場のニーズ

- ① デジタルカメラでの写真撮影と個別管理作業を**自動化へ**！（工数削減）
- ② 膨大なイメージデータから当該写真の**検索の高速化**！（管理精度の向上）
- ③ 確認業者のサイン、ダメージ詳細情報、レポート等との**情報連携**！

ダメージ管理のシステム化へ

2 .Damage Tracerとは

- 2 - 1 . Damage Tracerとは
- 2 - 2 . Damage Tracerの特長
- 2 - 3 . Damage Tracerの構成
- 2 - 4 . Damage Tracerの動作環境
- 2 - 5 . Damage Tracerの機能

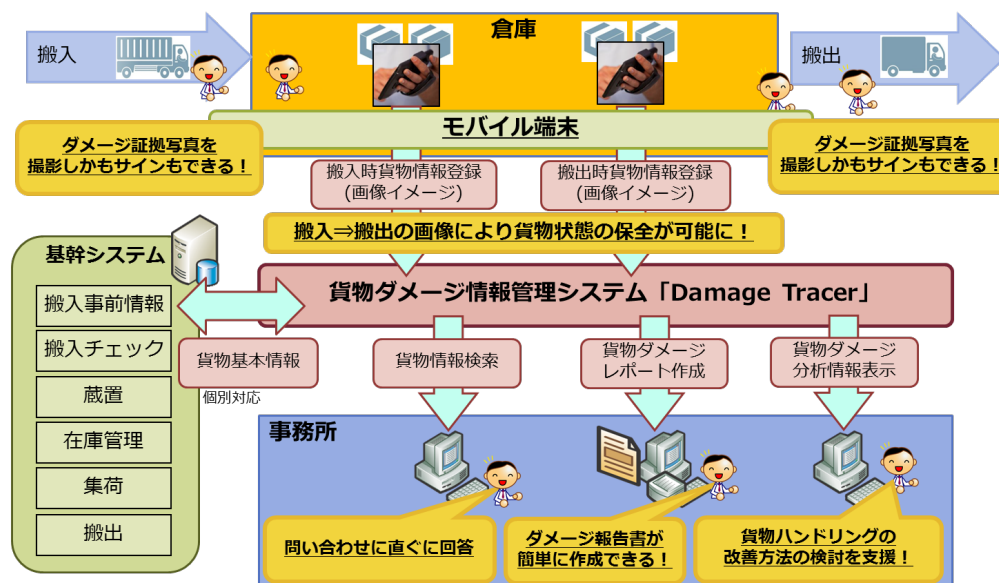
2-1. Damage Tracerとは

貨物ダメージ情報管理の効率化と管理精度の向上を実現します。

貨物倉庫業界で培ったノウハウをシステム化し、業務効率の大幅な向上を実現します。

貨物のダメージ画像の撮影は、カメラ機能付きモバイルデバイスを活用することで、貨物のダメージ画像の撮影や、その貨物を特定するキー情報と貨物のダメージ状態の紐付け作業などを現場で完結することが可能になります。

例えばダメージ画像をデジタルカメラで撮影した場合、保存された画像データに対して、後付で貨物のキー情報を付与する必要がありますが、本システムでは、撮影画像を保存するタイミングで、貨物のキー情報をはじめとして、ダメージの程度や貨物の補足情報も一括で記録でき、管理精度の向上を図ることが可能です。



品質の高い貨物ハンドリングと原価の低減が可能に!!!

1 貨物ハンドリング現場で貨物のダメージ状態を写真付きで登録可能

カメラ機能付きモバイルデバイスを利用することにより、これまでの貨物運搬や仕分作業の運用を変更せず、必要な時にすぐ、貨物ダメージ情報（画像、ダメージ種別、ダメージレベル、キー情報）の記録が可能です。

また、サジェスト機能により、キー情報を入力すると事前に本システムに取り込んだ貨物関連情報から自動的にまたは選択式で入力が可能になるため、モバイルデバイスでの入力の手間を省略できます。

2 貨物ダメージレポート作成の作業負荷軽減

貨物ダメージが発生すると、搬入会社や取引会社はもちろん、国際貨物の場合は税関への報告が必要になります。これまで、貨物のキー情報ごとにダメージ情報を集め、該当するダメージ画像を抽出・整形して貼付するなどしてまとめていた面倒な貨物ダメージレポートも、レポート出力が必要な貨物のキー情報を指定すれば、必要なデータや画像が報告用の定型フォーマットに自動で反映されるため、簡単に作成できます。

3 貨物受け渡し時の手書きサインもシステムで管理

モバイルデバイス上での手書きサインをサポートし、その場で、搬入者・受取者のダメージの相互確認サインが可能です。

4 貨物の現物を見ながらダメージ画像へ書き込み可能

貨物ダメージ画像データにしるしをつけるとともに、コメント等を書き込むことができます。（元の貨物ダメージ画像の編集は不可）

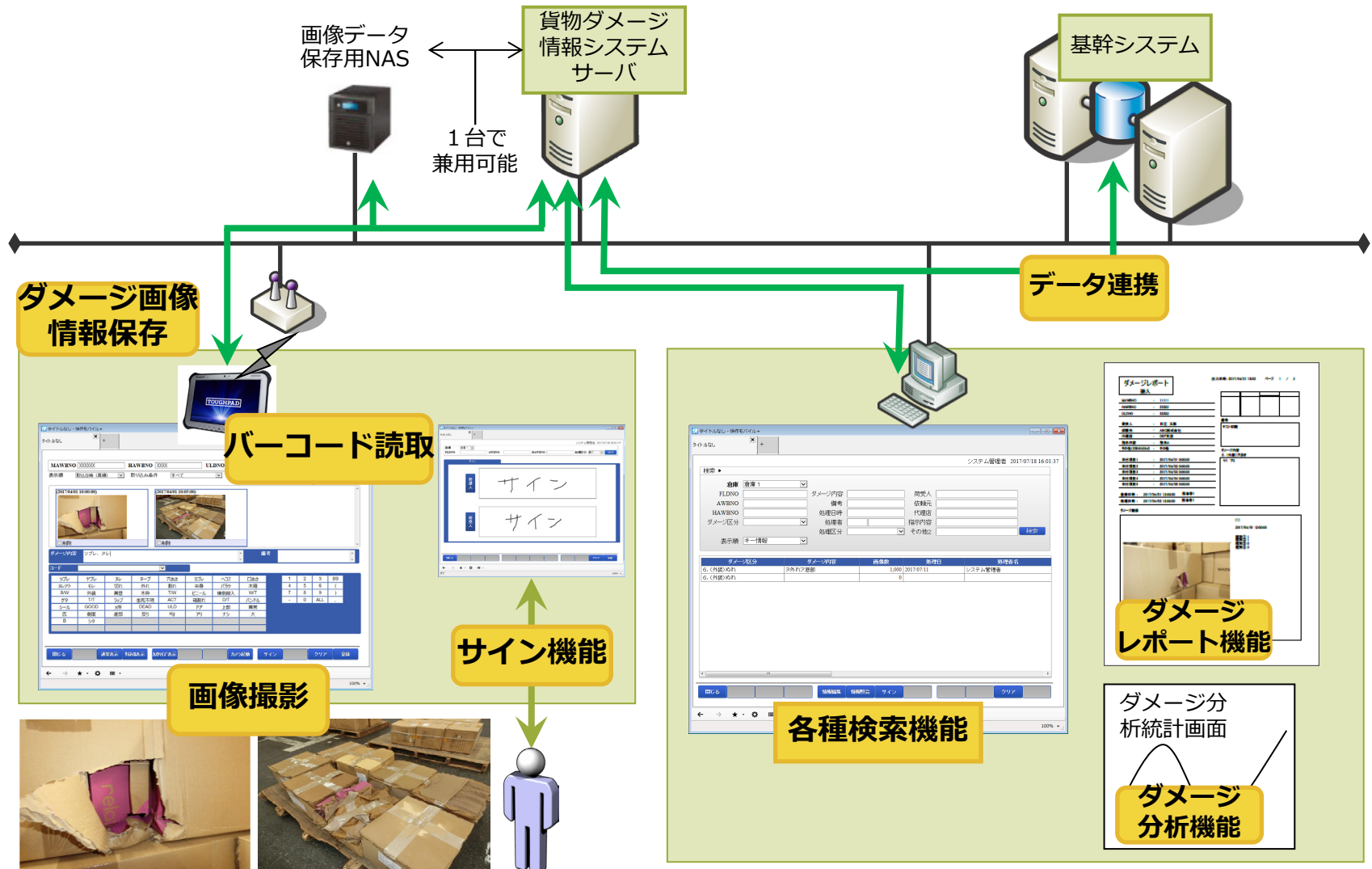
現物を確認しながら、その場で補足情報等を記録することができるので、現場でのメモをバックヤードで入力しなおすなど、二重入力の手間が不要になり、記録時間の削減が可能です。

また、編集した画像データは貨物ダメージレポート機能で使用できます。

5 貨物ハンドリング現場の業務改善を支援（個別オプション機能）

貨物基幹システムとの情報連携により、貨物属性（発地、経由地、運送会社等）とダメージ情報（ダメージ種別、ダメージレベル）を組み合わせた分析が可能です。また、ダメージ画像と合わせることで、貨物ハンドリング向上のための改善方法の検討を支援します。

『Damage Tracer』の構成



2-4. Damage Tracerの動作環境①

サーバ動作環境

サーバ種別	ソフトウェア/Version
サーバOS	Windows Server 2012 R2
Damage Tracer コンポーネント	Internet Information Services 8.5
	PostgreSQL 9.4.5
快作モバイル+ コンポーネント	Apache 2.2.25
	Tomcat 7.0.57
	JRE 1.8.0_31

モバイルタブレット端末

メーカー/機器	対応機種/OS
任意	Android™ 6.0 ※Android™5.0 以降では、Webviewを利用者操作で個別にアップデートすることが可能です。Webviewは快作モバイル+で利用しているブラウザエンジンであり、バージョンによって表示等の挙動が異なる場合があるため、アップデートには十分ご注意ください。
任意	Windows 10 Professional

管理PC端末

メーカー／機器	対応機種／OS
任意	Windows 7 Professional、 Windows 10 Professional

外部デバイス

区分	デバイス名称	対応OS
バーコードリーダー	<株式会社ZEBRA> C-3000シリーズ	C-3070

画像撮影編集機能

貨物のダメージ状態をモバイル端末のカメラ機能を利用して撮影した上で、ダメージ画像に対し手書きでマーキングすることが可能です。（元の貨物ダメージ画像自身の編集は不可）
編集した画像データを貨物ダメージレポート機能で使用できます。

The screenshot shows the Damage Tracer web interface. At the top, there are search filters for FLTNO, AWBNO, HAWBNO, and 処理区分. Below the filters, there are three thumbnail images of damage. The first image, showing a blue Intel Core i5 processor, is highlighted with a red box. Below the images is a table of damage codes. The 'カメラ起動' button is also highlighted with a red box. A large grey arrow points from the first image to the mobile camera view below.

1 1. 1~1 0以外の事故										
ツブレ	スレ	テープ	穴あき	ヨゴレ	ヘコミ	口あき	1	2	3	BS
スレアト	切れ	外れ	割れ	中身	バラケ	木箱	4	5	6	(
SW	異音	木枠	T/W	ビニール	横割れ	W/T	7	8	9)
グタ	ラップ	生死不明	ACT	箱割れ	D/T	バンドル	-	0	ALL	,
シール	か所	DEAD	ULD	ドア	上部	異常				
皿	底部	反り	Kg	アリ	ナシ	大				
B										



2 - 5 . Damage Tracerの機能

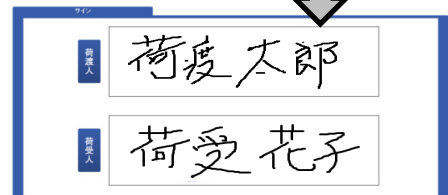
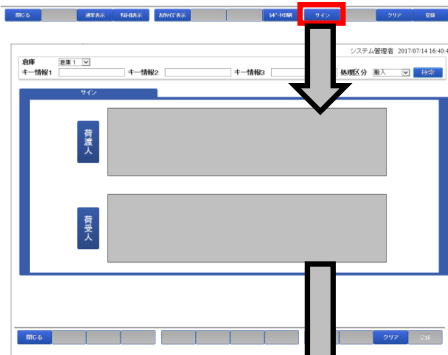
貨物ダメージレポート機能

貨物ダメージレポートも、貨物ダメージ情報の画像データ、キー項目の標準レイアウトを設定した定型レポートを予め準備しておくことで、簡単に作成することができます。
レポートでは、各種キー項目情報、ダメージ内容、ダメージ画像をpdf形式で出力します。



サイン機能

モバイルデバイス上での手書きサインをサポート。荷渡人・荷受人のダメージの相互確認サインが可能となります。



個別オプション機能

1. 複数倉庫オプション
貨物情報に対して倉庫毎に一元管理する機能を提供します。
2. 分散ストレージオプション
複数ストレージにダメージ管理情報を分散格納することで性能、耐障害性を強化する機能を提供します。

その他の機能

項番	機種		機能名	概要
	モバイル	管理PC		
1	○	○	ログイン画面	システムログイン機能
2	○	○	パスワード設定機能	ログインパスワード設定機能
3	○		メニュー画面	モバイルデバイスメニュー機能
4	○		情報編集機能	伝票に対するダメージ情報の登録・編集機能、バーコード読取機能
5	○		情報検索機能	伝票検索を実行
6	○		サイン機能	伝票に対するサイン機能（荷渡人、荷受人）
7		○	メニュー画面	管理PCメニュー機能
8		○	情報編集機能	伝票に対するダメージ情報のメンテナンスを実行
9		○	情報検索機能	伝票検索を実行
10		○	サイン機能	伝票に対するサイン機能を確認
11		○	貨物ダメージレポート機能	ダメージ報告書をキー情報単位で単票PDF形式で出力
12		○	貨物ダメージ一覧機能	ダメージ状況を一覧出力（CSV出力）
13		○	バックアップ・クリーニング機能	バックアップ・クリーニング処理（DBデータ、画像）
14		○	リストア機能	バックアップからのリストア機能
15		○	基本情報登録機能	キー情報の登録機能
16		○	項目マスタ設定画面	キー情報1～3、カスタマイズ項目1～5の項目設定
17		○	ダメージマスタ登録画面	ダメージマスタ情報をメンテナンス
18		○	名称マスタ登録画面	名称マスタ情報をメンテナンス
19		○	担当者マスタ登録画面	担当者情報をメンテナンス
20		○	倉庫マスタ登録画面	倉庫マスタ情報をメンテナンス *Damage Tracer複数倉庫オプションを契約する事で利用可能となります。
21		○	保存先マスタ登録画面	保存先マスタ情報をメンテナンス *Damage Tracer分散ストレージオプションを契約することで利用可能となります。
22		○	倉庫保存先切替登録画面	倉庫保存先切替をメンテナンス *Damage Tracer分散ストレージオプションを契約することで利用可能となります。

3. メニュー体系

3. 1 メニュー体系

① サーバ/クライアントライセンス

ライセンス	価格 1ライセンスあたり
Damage Tracer サーバライセンス	5,000,000円
Damage Tracer クライアントデバイスライセンス	20,000円

② オプションライセンス

ライセンス	説明	標準価格
Damage Tracer 複数倉庫オプション	複数倉庫を1つのストレージで管理できるようにする。	500,000円
Damage Tracer ストレージ分散オプション	複数ストレージにダメージ管理情報を格納することで性能、耐障害性を強化する。	500,000円

- Microsoftは、米国およびその他の国における米国Microsoft Corp.の登録商標です。
- Windowsは、米国およびその他の国における米国Microsoft Corp.の登録商標です。
- Windows Serverは、米国およびその他の国における米国Microsoft Corp.の商標です。

- その他記載の会社名、製品名は、それぞれの会社の商標もしくは登録商標です。

株式会社 日立ソリューションズ・クリエイト

電話でのお問い合わせ

0120-954-536

受付時間 10:00~17:30 月曜日~金曜日（祝日、弊社休業日を除く）

メールでのお問い合わせ

hsc-contact@mlc.hitachi-solutions.com